

## 意識啓発セミナー 実施報告書

【演題】 やりがいや充実感を持つためのワークライフバランス

【講師】 小原 道子氏

(岐阜薬科大学地域医療薬学寄附講座 特任教授)

【日時】 平成 30 年 12 月 20 日 (木) 15:30~17:00

【場所】 岐阜薬科大学本部 大学院講義室

【参加者数】 45 名 (うち女性研究者 9 名)

岐阜薬科大学 41 名、岐阜大学 3 名、岐阜女子大学 1 名



講師は本学寄附講座の特任教授であり、業界最大手ウエルシア薬局株式会社の会長付地域連携推進担当部長や関連会社の取締役などを勤めている。在宅医療の専門家である。大学薬学部を卒業後に都心の総合病院で薬剤師として勤務、その後農村に開設した調剤薬局に転職し、当時はまだ珍しかった訪問薬剤師として在宅医療業務に携わる。挫折を感じながらも自ら工夫して取り組み、患者家族との交流により、「薬剤師には、患者の生活に寄り添うことで必要な情報を提供する役目がある」と意識したという。これが今の仕事の原点であると話された。

講師は、これまで複数の疾患で手術を受けたり、家族の介護によるストレス疲労で入院したりと、医療従事者でありながら、患者の立場で医療に接してきた経験がある。また流通業界で職を得ていた時代もあり、様々な経験をしてきた。現在も闘病中であると告白された。

今回の講演では、与えられた命・人生をいかに生き抜くか、ワークライフバランスは人生の通過点でありその先を生き抜くために今すべきことは何か、意識すべきことは何か、ということ、講師がこれまで経験した仕事、病気に関すること、介護などの経験により得られた知見や考え方を聞くことができた。

自分が生きてきて得た経験はすべて大きな財産である。これを男女ともお互いにシェアリングするのがこれからの生き方の一つになると思うと話された。

また、良い記憶をもって人生を生きるためには、良い仲間、あるいは良い仲間と出会える場所が重要であると考えた。これがリーダーシップやワークライフバランスとかかわってくる、と展開された。

### ワークライフバランスは男女とも大事

大事なことは、自分の人生スタイルに自信を持つことである。自信を持てるようになれば、ワークライフバランスにつながっていき、充実した人生を送れるのではないかと。その時にできることを精いっぱい取り組み、希望や夢を絶対に忘れない。相談できる人を持ち、自分のスタイルを確立していく。

そしてワークライフバランスをとって生きぬくために最も大事なことは、人脈であると述べられた。講師は過去の患者の家族、心身ともに困難な時期に励ましてくれた 10 歳以上

年上の先輩女性たち、また闘病中に出会った人々など、様々な縁を得てきた。すべての人にとって、様々な社会に少しずつつながりを持つことがいいことではないか、と述べられた。人の縁は薄れることはあっても切れることはない。

いまは目の前にある仕事や人間関係で日々を過ごしているだろう。ワークライフバランスを人生の通過点と捉えたとき、如何様な人生を生き抜くのかと考えると、いまのワークライフバランスが明確になってくるのではないか。豊かな人生を生きぬくためにすべきことは何か、ということに気がつくのではないか。「自分自身が楽しく生き抜くための通過点がワークライフバランスであり、ワークライフバランスは自分の大切なこと探しの時間」であるとまとめられた。

リーダーとは自分自身が磨かれないといけない。自分自身に希望をもたなければいけない

リーダー論についても話があった。自尊心を高めて自分を輝かせるしかない。

自分の人生は自分で創造できると確信すること。素晴らしい人生を創造すれば自分の中の頂点に立てる、その瞬間だれもがリーダーになる。これは講師のワークライフバランス論に通じるものである。誰かに認められるためではなく、自分自身がリーダーとして構築されていけば、人はついてくるのではないかという話であった。

生物的な男女差はいかんともしがたいが、女性は感情的になりやすいと言われがちである。また、企業でも女性管理職はごく少数であり、女性主導の業務がとても少ない。身近なところでは、会議を主催することもほとんどない状態であった。お手本がないため、自分が最初に行く時は非常に悩んだそうである。自分が優位になるよう決めたルールを紹介された。①ポジティブな意見を話す。②発言者を必ず褒める。③否定的な意見の時には代替案を用意してから発言するよう求める。そして、初めて議長をするので手を貸してほしいと素直に出たそうである。現在も、軽やかに和やかに進行するように努めているということであった。男性にするように、女性にも同じようにアドバイスをして経験させる必要があると考えている。

男女ともにお互いにとっていい働き方ができる社会づくりを推進していくことが重要だと思う。男性も女性も社会にとっては同じくらい重要な存在である、これからどう過ごしていくかという事をお互いが心をつ一つにして話し合う場が必要である。

これまでワークライフバランスに関して、女性が結婚、出産、育児、介護などをしながらでも働き続けるために、仕事と家庭とのバランスをいかにとっていくか、という切り口の講演をきいてきた。今回のセミナーではとても新鮮な観点を示され、まさに意識啓発にふさわしいセミナーであったと思われる。

